

＜株式会社エフエム東京 第 514 回放送番組審議会＞

1. 開催年月日：令和 6 年 12 月 3 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 11 階大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（6 名）

ロバート キャンベル 委員長	佐々木 俊 尚 委員
松 田 紀 子 委員	山 口 真 由 委員（レポート）
柴 崎 友 香 委員（レポート）	福 里 真 一 委員

◇欠席委員（0 名）

◇社側出席者（5 名）

唐島 夏生	代表取締役社長執行役員
内藤 博志	取締役執行役員編成制作局長
宮野 潤一	編成制作局次長 兼 編成部長
山領 由紀	編成制作局制作部長
藤岡 泰弘	編成制作局制作部プロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴 （70 分）

『FM FESTIVAL 2024 竹内まりや 45th Anniversary Special
～まりやとわたしの Precious Words～』

2024 年 11 月 4 日（月・休） 16:00～19:00 放送

＜議事内容＞

議題 1: 最近の活動について

■2024 年 10 月度 聴取率調査結果

当社は、ビデオリサーチ 2024 年 10 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査（2024 年 10 月 21 日～10 月 27 日）において、以下のとおり、主要 3 区分においていずれも在京首位を獲得しました。

- 男女 18～49 歳：同率首位 ※22 年 2 月以来 17 期連続首位
- 男女 12～59 歳：単独首位 ※22 年 2 月以来 17 期連続首位
- 男女 12～69 歳：同率首位 ※22 年 4 月以来 16 期連続首位

【男女 18～49 歳】（メインターゲット）

	全局	TFM	J-WAVE	LF	TBS	QR
今回（10 月度）	3.0	0.4	0.3	0.4	0.3	0.2
前回（8 月度）	2.9	0.4	0.4	0.4	0.3	0.1

【男女 12～59 歳】

	全局	TFM	J-WAVE	LF	TBS	QR
今回（10 月度）	3.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.2
前回（8 月度）	3.3	0.5	0.5	0.5	0.3	0.2

【男女 12～69 歳】（個人全体）

	全局	TFM	J-WAVE	LF	TBS	QR
今回（10 月度）	4.0	0.5	0.4	0.5	0.5	0.3
前回（8 月度）	3.8	0.5	0.5	0.5	0.4	0.3

議題 2：番組視聴

【番組名】

『FM FESTIVAL 2024 竹内まりや 45th Anniversary Special
～まりやとわたしの Precious Words～』
2024 年 11 月 4 日（月・休） 16:00～19:00 放送

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、11 月 4 日（月・休）に放送した『FM FESTIVAL 2024 竹内まりや 45th Anniversary Special～まりやとわたしの Precious Words～』のダイジェストです。

FM FESTIVAL とは、全国 FM 放送協議会（JFN）に加盟する全国 38 の FM ラジオ局が毎年ひとつになって実施している大型特別番組です。1972 年のスタート当初から毎年さまざまなテーマにもとづいた特番を放送しています。今年度は、1978 年 11 月のデビュー以来数多くの名曲を届け続け、デビュー 45 周年イヤーを迎えたシンガーソングライター・竹内まりやを迎えてお届けしました。

番組の進行は住吉美紀が務め、竹内まりやに、約 10 年ぶりとなる待望のニューアルバム『Precious Days』に込めた想いや制作秘話、これまでの歩みについてじっくりと伺いました。また、番組では竹内まりやの“歌詞の世界”に注目し、全国のリスナーが心動かされた言葉、影響を受けた歌詞のフレーズ＝“Precious Words”を募集し、リスナーのエピソードと共に竹内まりやの楽曲を紹介しました。

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○素晴らしい番組だった。住吉氏のややテンション高めな声と竹内まりや氏の低いクールな声のコンビのバランスが良かったように思う。ここ最近、テレビなどにも出演している竹内まりや氏を拝見しているが、この番組ではとてもリラックスして感じられて、積極的なトークでとても生き生きとしていた印象を受けた。リスナーを緊張させず、ながら聴きでも楽しめる構成。最後まで聴いていくと、トークの中で歌詞の世界が解き明かされて行って、とても腑に落ちる番組だと感じた。

○強いて言うなら、タイトルが少しベタに感じた。

○歌詞に注目したことがとても面白いなと思った。最近のシティポップの流れの中で、改めて注目してみると竹内まりや氏の楽曲の歌詞はすごく肯定感に溢れていて、70年代頃は、この手の楽曲は軟弱な奴が聴いているとも言われていて、あまり歌詞などが注目されることはなかった。それから半世紀くらいが経って、日本国内や海外でシティポップがすごく聴かれるようになった。時代によって明るい曲を求めたり、暗い曲を求めたりする、時代との共犯関係もあるのではないかと、この番組を聴いていて思った。

○この番組を制作したことに深く感謝をしたいような番組だった。そんなにしっかりと竹内まりや氏の楽曲を聴いてこなかったが、どの楽曲も本当に素敵だった。歌詞の世界と共に聴きながら思い当たる風景がいくつもあって、“この歳で出会えて良かったな”と素直に思った。言葉選びもとても丁寧で、歌から伝わってくる信頼のようなものがあつた。またトークの部分での言葉選びも、人柄が出ていると思うが、優しい言葉選びで、真っ直ぐな謙虚さのようなものが伝わって来た。身に沁みる番組というのが全体的な感想。

○様々なリスナーからのエピソードが、それぞれは小さなものであるが、積み重ねることで本当に楽曲が愛されて、それぞれの人生に寄り添ってきたのだということが伝わって来た。

○長年にわたって活躍されてきた1人（または1組）のアーティストについての長時間の特集番組は、以前にも審議会で聴いたが、時間の長さを生かして、数多くのヒット曲、ファンの人が思い入れのある曲などを通じてその音楽の世界を知ることができ、時代が移り変わる中でもいろんな人がある歌に対してそれぞれの思いを持って聴いてきたその思いが伝わってくるのが、とても意義深いことだと思う。

○個人的に竹内まりや氏の曲をすごく熱心に聴いてきたという訳でないが、リスナーからの「励まされたり、つらいときに支えられた」というエピソードが多いことが、その歌の魅力を象徴していた。主題歌になっていたドラマのシーンが思い出されたり、中学生の頃に友達同士でカセットテープを作って交換するのが流行っていて、竹内まりや氏の曲をよく入れていた友人のことを思い出したりして、懐かしい感情に揺れ動きつつも、穏やかにゆったり音楽を共有できる番組だった。

○竹内氏の話す声は、歌での少し甘さのある声とはまた違った落ち着いた声で、しっかりと内容が入ってくる魅力があった。特に歌詞にフォーカスした特集ということで、「ディクショナリー」の発音を気にしていたり、英語の部分をどう書いているかの話が興味深かった。

○竹内氏の曲は、言葉（歌詞）がとても聞き取りやすいので、ファンの方のエピソード、歌詞の解説で十分で、朗読の部分は少し過剰なように思えた。

○作り込んだ番組などは、聴き手側に「聴くことに集中する」という緊張を生むこともあるが、この番組は 3 時間リラックスして“ながら聴き”ができるラジオらしい番組でとてもよい息抜きになったように思う。「えっもう 3 時間経ったの？」という心地よさ。竹内まりや氏の歌詞という切り口と、後半に明かされる実は年代順に楽曲をオンエアしているという構成の妙により、一貫性を以て聴くことができた。年代順という種明かしをせずに、リクエストを追っているように見せて、竹内まりや氏に作詞当時の思いを伺いながら、ごく自然に 45 年を振り返ることができたのもすごくよかったと思う。

○竹内氏がアイドルのような売り出し方に悩んでいたこと、結婚して歌手としての生活に一区切りをつけたこと、子どもを育てながらシンガーソングライターを続けたこと、バブルに揺れる世の中で静謐な暮らしを楽しめたこと…そのときどきの歌とともにその当時感じたことをおしゃべりしていくという流れの中だからこそ、終盤にかけて、徐々に「生きているだけで感謝」とか、「アンラッキーなことがあっても意外と生きていける」という竹内氏の核みたいなものが見えてきて、山下達郎氏の語る「生命への肯定感」といった彼女の 45 年の歌手としての歩み、人生の背骨にぐっと迫ることができたのだと思う。軽いタッチではじめて深いところまでたどり着いた感じがした。

○ドクター・キャピタル氏の分析もとてもよかった。歌詞とリズムが見事に合っている、英語の歌詞が文法的にも正確で、表現としてもネイティブもかくやと思えるほど巧みである、竹内まりや氏が自然に表現していることが客観的な分析で説得力を増した。

○早見沙織氏の声はとてもきれいだが、竹内まりや氏の歌詞を朗読するのに合っているのかは、少し微妙に感じた。とはいえ、彼女が登場したことで、竹内まりや氏が「沙織ちゃん」と語りながら、楽曲提供をする際にその人の声質をよく見極めて、個性の幅を引き出すためにどんな楽曲がいいかを真剣に考えている、早見氏が言うところの「包み込むような」母性のようなものがよく表れていた。これによってさまざまな女性歌手の新しい側面を引き出してきた竹内まりや氏の魅力も伝わってきた。

○番組全体として、リスナーの人生の大事なひとときに竹内まりや氏の歌詞がどのように響き、背中を押し、現在に繋がっているのかをひとつひとつ丁寧に拾っていくという、これこそラジオという構成によって、一人の女性歌手をリアルに立体的に描き出すというのがビシッとハマった番組だったと思う。

■参考になるご意見をありがとうございました。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

12月28日(土) 5:55～6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>